

第22回 石川ジュニアオープンバドミントン大会

監督会議資料

競技上の注意

1. 本大会は、本年度の(公財)日本バドミントン協会競技規則、大会運営規程、公認審判員規程により行います。
2. 選手および監督・コーチは、競技場で待機し試合のコール(場内放送)後、直ちにチームでまとまって指定コートに集合してください。
3. タイムテーブルにはコート別に試合順が示されていますが、あくまで目安であり、試合の進行は流し込み方式で行います。試合開始時刻や使用コートを変更することもありますので、場内放送には十分ご注意下さい。
4. 対戦中にベンチ入りが認められるのは、監督・コーチ・選手のみとします。
5. 各ゲーム終了後のアドバイスは、先にチェンジエングスを行ってお願いします。なお、アドバイスをすることができる人数は2名以内とします。(水分補給や汗ふきなどのための選手も含む)
6. 試合前の練習は、団体戦の初回戦のみ行います。主審の計時により3分間とし若番のチームから始めます。
7. 団体戦において、競技開始15分前にオーダー用紙を提出して下さい。(男:剣体籠、女:剣スポーツター)ただし、男女共1回戦のオーダー提出は、5日(金)午前11時までをお願いします。
8. 団体戦の試合順は、複1 単 複2とします。初回戦は3試合とも行います。
9. 試合が連続になった場合は、原則として試合終了後10分間の間隔を置いた後に試合を始めます。
10. 主審が認めた事以外の試合の中断は一切認めません。怪我などは主審の指示に従ってください。
11. 審判員の判定に対して疑問のある場合には、団体戦では当該選手と監督に限り、個人戦では当該選手に限り、主審に質問することを認めます。ただし、抗議や異議は認めません。
12. 選手は、試合中上衣は背面中央に必ず学校名を明示し、上衣の裾は下衣に入れてください。
13. 水分補給は試合のインターバルのみ認めます。水滴等が落ちないように配慮をしてください。
14. 上記の他、監督会議において連絡した内容に従ってください。

審判上の注意

1. 審判は、本年度の(公財)日本バドミントン協会競技規則、大会運営規定、公認審判員規定に基づいて行います。
2. 抗議は一切認めません。それと思しき言動も慎んで下さい。質問は当該選手と監督に限り認めます。
3. 競技規則第16条の規定により、以下のような行為は警告、フォルトまたは失格となりますので注意してください。
 - (1) プレーを故意に遅らせたり中断すること。
 - (2) 故意にシャトルに手を加えたり破損したりすること。
 - (3) 見苦しい服装でのプレー、審判員や観客に対する横柄な態度など、下品で無礼な態度や言動。
 - (4) コート施設を叩いたり、耳障りなかけ声や呼び声を発するなど、競技規則を越えた下品な不快な行動。
4. 試合の棄権について、次の場合棄権とみなします。

何の連絡もなく、選手が集合時刻に集合しなかった時。

[ゲーム間のインターバルにも適用します。プレーヤーは試合再開20秒前にはコート付近にいてください。]

ケガなどで試合の続行が不可能なときや事故タイムは、次の規定を参照にして判断します。

[テーピング治療などは、外傷、けいれんなどははっきりわかるもので、主審に申し出があれば、コート内で最大5分以内、1回限り認め、2回目からは、試合続行不可能とみなします。]